

大学における学生支援システムの構築 ～学生支援～精神保健～自殺予防～

太田列子 三好謙一 藤原義嗣
梅光学院大学 学生支援センター

1. 近年の大学に於ける学生支援の現状と学生支援システムの構築

文部科学省は、豊かな人格形成に資する学生生活を支援する観点から、社会や学生からの多様なニーズに対応する大学教育を実現するための総合的な学生支援が、大学を構成する中核的要素であるとして、「学生の視点に立った大学教育」の充実を図る必要があるとしている。これを受けて、本学では、学生の修学支援、生活支援、学生相談、経済的支援等、学生のあらゆる相談に応じる総合窓口として学生支援センターを設置し、学生の多様性に応じて、入学前から卒業後までの多様なニーズに対応するための一貫した組織を作り、ワンストップ・サービスを行うこととなった。

本研究では、コミュニティ・アプローチの視点から、学生支援システムの構築と学生のメンタルヘルス支援の過程を示し、アクションリサーチ（action research：Kurt Lewin）の手法を用いて、学生中心の学生支援のために、学生と教職員が有機的に連携する方策の在り方を検討する。

2. 学生支援の実際

大学には既に保健室や学生相談室があり、看護師や臨床心理士の学生相談員（カウンセラー）が毎日常駐しているが、アパートや寮生活など、初めて一人暮らしをする学生の抱える漠然とした不安や、卒業研究や就職活動の困難さ、睡眠障害、気分障害による衝動的な行為などの、突発的・具体的な課題に対処することは困難である。そこで、従来の学生相談に加えて、学生生活を直接支援し日常的に学生に寄り添うことを目的として、臨床心理士による学生支援員（コンシェルジュ）を設置すると共に、学生自身による主体的な学生支援を目指して、リーダーシップ研修やピアサポーター研修を実施し、学生サポーター（Buchiサポーター）を組織した。

3. 学生のメンタルヘルス支援と自殺予防

入学時に初期不安が高かったり、環境の変化への適応が困難な学生が多いことから、入学前・入学時支援として、事前面談や1年生全員の行動観察と健康調査票によるアンケート調査を行い、要配慮・要支援学生の早期発見と対応に務めた。また、世界自殺予防デーに合わせて、全学生を対象に「心の健康づくりシンポジウム」を開催し、学生の抱える悩みについてアンケート調査を実施した。

4. 考察

学生のメンタルヘルスに付いて、カプラン（Caplan,G）の地域精神保健の予防概念である、①発生予防（第一次予防）、②早期発見、早期対処（第二次予防）、③再発防止（第三次予防）によれば、未然防止と早期の介入が重要である。石隈（1996）はこれを応用して、教育援助を①すべての学生の援助ニーズに応じる一次的援助サービス、②問題を持ち始め、問題をもつ可能性の大きい一部の学生への二次的援助サー

ビス，③援助ニーズの大きい特定の学生への三次的援助サービスの3段階に分類している。Buchiサポーターによる新入生オリエンテーションや何でも相談，コンシェルジュの日常的な生活支援によって，すべての学生の初期不安に対応し，緩やかな学校適応につなげて行くことができた。また，入学時に実施した健康調査票と行動観察によって，学生の心身の状態を把握し，教職員が連携して要配慮学生の面談と支援内容を決定，その後も卒業や就労に向けて定期的な面談を行っている。自殺予防に付いても“ゲートキーパー”のような，自殺を前面に掲げた積極的支援は苦手な学生でも，Buchiサポーターのようにファシリテーター（facilitator：促進者）的な役割を取ることは可能である。学生自身が自発的・主体的に仲間を募り，学生生活の様々な課題に取り組んで行くことが大切であり，教職員は“ほど良きサポーター”（good enough supporter）として機能することが重要であると考ええる。